令和５年度 事業報告

岡山理科大学附属高等学校

現代は、想定されていなかった出来事が突然発生し、私たちの日々の生活や世界のあり方までも変わってしまう時代です。このような社会をたくましく生きる若者を育むため、国を挙げて進められる教育改革を踏まえ、本学建学の理念「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出す」教育プログラムを展開します。

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染爆発は、私たちの日常生活にも大きな影響を与えました。現代の社会は、これまで経験したことがないような大きな変化が起きるようになっており、また、今後も予想がつかない変化が続いて行くものと思われます。将来を担う若者にたくましく生き抜いてもらうためには、従来の知識・技能を受動的に修得させる教育では不十分です。このため、①生きて働く知識・技能の習得、②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養を３つの柱とする、幼稚園から高校までの一貫した教育改革が進められています。本年度は、この改革の学年進行に従い、高校２年生までを対象に新しい学習指導要綱による教育を実施しました

本校は、５年前に、特徴のある４つの教育コース（グローバルサイエンス、総合進学、スポーツサイエンス、国際バカロレア）を設立し教育を実施してきました。本年度も、本学園の建学の理念である「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出す」ことを基盤に、それぞれの教育コースが、社会を牽引できる人材の養成を目的に、独自の育成目標を掲げ、それを達成するための教育プログラムを実施しました。グローバルサイエンス、総合進学、スポーツサイエンスにおいては、加計学園（岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、岡山理科大学専門学校）との連携教育を特徴とする多様で深い学びを提供しました。国際バカロレアでは、国際的な基準に従った教育を実施し、昨年度に引き続き、最終試験に合格してディプロマ資格を獲得した第２期生を輩出しました。今年度における具体的な教育活動と学校運営については、設定した事業計画に従い、次に掲げる項目に重点を置いた活動を展開しました。

Ⅰ．教育の推進

１）加計学園全体の教育資源を有機的に活用した質の高い教育の提供と進路の開発

２）世界が認めるグローバル人材を育む国際バカロレア教育の推進

３）時代の要請に応える国際的な通信制教育の展開

Ⅱ．生徒の支援

１）生徒の多様な資質や希望に応えるコース設計

２）生徒支援・指導体制の充実

Ⅲ．地域社会との連携

Ⅳ．国際理解と国際貢献

Ⅴ．ＤＸの推進

Ⅵ．ガバナンス体制と内部質保証システム

岡山理科大学附属高等学校　校長　田原　誠

Ⅰ．教育の推進

１．質の高い教育の提供に関する目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［1］質の高い教育の提供に関する計画 1）加計学園の高等教育機関と各教育コースとの連携について、その実施方法等を評価・検討しながら推進する。	**［1］加計学園の高等教育機関との連携による質の高い教育の提供** 関連校の大学の講義等を履修するカリキュラムにより、学問的な発展などに興味を抱かせる。さらに、本校での教育を大学での単位認定取得につなげることで、連携大学への進学を導く。また、生徒が大学の教育研究に触れることで、生徒一人ひとりの能力・適性や自己の発見と成長に繋げる。 岡山理科大学との連携体制構築のために、高大接続担当を置き、円滑な活動を進める。 さらに、岡山理科大学との高大連携の中心であるグローバルサイエンスコース１年次､2 年次のサイエンスワーク（大学聴講）､2 年次、3 年次のゼミ活動については､開講科目の増加による充実を図る。	**［1］加計学園の高等教育機関との連携による質の高い教育の提供** グローバルサイエンスコースに高大連携教育科目として設定しているサイエンスワークでは、1 年次の大学教員による授業で、高校での学びと大学での発展性等を認識させた。さらに、2 年次は大学の授業聴講、3 年次は大学の研究室でのゼミ活動などにより､大学の学びをより深く理解させるとともに､これらの活動に必要となる思考力や対話能力の発展に結びつけた｡岡山理科大学との高大接続については、担当を置き、連携プログラムの精査とさらなる発展をめざしている。 また､スポーツサイエンスコースでは倉敷芸術科学大学と、さらに、総合進学コースでは、岡山理科大学専門学校との間で､関係する専門分野での大学教員による指導を受けるとともに実習活動を受講しており､実践的で質の高い教育を展開することができた。	S
2）新しい学力観の養成に即した教育方法や、ICT を活用した授業方法の導入を進める。	**［2］新しい学力観の養成に即した教育方法** 教員一人ひとりが、教科教育の専門性を高め、授業の質的改善を行い、生徒の基礎・基本的な学力を定着させ、生徒に応じた細やかな教育指導を行う。さらに、発表や討論の時間を設定し、対話的な協働学習を進めるなどの実践的な協働教育の充実を図り、生徒が意欲的に学習できる環境の構築に努める。	**［2］新しい学力観の養成に即した教育方法** 新学習指導要領による教育活動は、1 年生と 2 年生を対象に実施した｡今回の要領改正では学力観と授業評価の方法に大きな改正が見られたので、昨年度に引き続き、教科単位で教材選定、指導方針などの協議検討を進めた。また、教員による相互の授業見学を全校的に企画・実施し、指導要領改正に合わせた教育力の養成を進めた｡さらに､新たな評価方法を適切に実施できるように教員への情報伝達を徹底した。 対話的な協働学習については､総合的な探求の時間を中心に、全てのコースにおいて生徒が調査、とりまとめ、発表、討論を行う授業を展開した。	B
	［3］ICT 活用教育の推進 Classi の機能を授業や復習などの学習活動に活用する、iPad で授業を行うなど､ICT を活用した教授法を研究し、授業中に実践的、体感的な活動が生まれるように努める。積極的に校内外の研修に参加し、整備されているインターネット環境を有効活用する。	**［3］ICT 活用教育の推進** 年度始めの職員会議において､ネットワーク活用について全教員に指導を徹底するとともに､生徒が所有する iPad または PC を使い、共同学習、オンライン教材での学習､ポートフォリオの作成と保存、課題提出等の他、Classi を利用した HR 活動や連絡、アンケート調査などを実施し、ICT の効果的な活用を進めた。	C

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
3）教育改善の効果を、大学進学や進路の開拓、各種資格の獲得などで指標化して確認する。	**［4］進学指導プログラムの充実** 外部テストのデータを活用し、進路目標に合わせた学習到達目標を設定して指導を進め、今までの進路実績と比較検証する。	**［4］進学指導プログラムの充実** 校外模試などの外部テストについては、各コースで生徒の現状にあう学習到達目標に向け、基礎学力の向上、志望校レベルへの到達など生徒個々の学力アップに努めた。さらに、進学指導の際の基礎資料として最大限に利用した。	B

２．国際バカロレア教育推進の目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［2］国際バカロレア教育の推進 1）国際バカロレア教育で大きく育つ入学生の確保を進める。	**［5］国際バカロレア教育(IB) 入学生の確保** 国際バカロレア教育(IB)について理解を得るための広報活動を展開する。この際、文部科学省 IB 教育推進コンソーシアムと連携した普及活動を展開する。 令和４年度修了の第１期生の大学合格や進学実績を基に広報活動を行う。	**［5］国際バカロレア教育(IB) 入学生の確保** 国際バカロレア教育(IB) についての認知を高める活動として、本校教員が文部科学省 IB 教育推進コンソーシアムにおいて IB 教育の実践を紹介する普及活動を実施した。また、オープンスクールなどにおいて、IB 教育の特徴、第１期生のディプロマ資格獲得状況や大学進学実績を情報発信し、入学生の確保に努めた。	B
2）定期的な研鑽機会の確保等により、担当教員の指導力の向上を進める。	**[6]国際バカロレア教育担当教員の定期的な研鑽機会の確保** 国際バカロレア機構(IBO)開催の教員研修会へ定期的に参加する。 IB 教育実施校の５年目審査を通して、国際バカロレア教育の理念や教育方法について、担当教員の理解や認識をさらに向上させる。	**［6］国際バカロレア教育担当教員の定期的な研鑽機会の確保** 国際バカロレア機構(IBO)が定める規則に従って、該当する教員が研修会に参加した。また、IB 授業担当教員によるコース会議を毎週開催し,指導方針や内容などについて情報交換を行っている。 本年度は、IBO による IB 教育実施校の５年目審査を受けた。審査への準備を兼ねて、担当教員はそれぞれ IB 教育の理念や教育方法などについて見直しを行い、相互に理解や認識を深める協働活動を実施した。	A
3）国際バカロレアの教育方法についての校内教員研修（他コース担当教員対象）を進める。	**[7]国際バカロレア教育担当教員による校内での教員研修** 国際バカロレア教育実施校の５年目審査を通して、IB 教員と他コース教員間の情報交換や研修を進める。	**［7］国際バカロレア教育担当教員による校内での教員研修** IB 授業担当教員は、毎週定期的にコース会議を開催し、教育方針の検討や情報交換を行っている。IB コース以外の所属の教員も IB 授業を担当しており、他のコースにおいても IB 的な教育法の普及を進めている。	B

３．国際的な通信制教育の展開の目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［3］国際的な通信制教育の展開の計画 多様な学習者の学びのニーズを評価・検討し、教育プログラムの向上を進める。	**［8］国際的な通信制教育の展開** 時代の要請に応える国際的な通信制教育を構築していくために、広報活動を通して学びのニーズを把握するとともに、新たな学びの方法などを検討・検証する。	**［8］国際的な通信制教育の展開** 海外からも教育を受けることができる本校独自の通信制教育の特徴をさらに生かすために、中国などの教育担当者と共同して学びのニーズ、学びの内容やスクーリングなどについて検証を進めた。さらに、留学生が来日して通信制教育を受けるための制度を確立した。	A

Ⅱ．生徒の支援

１．生徒の多様な将来像に応えるための目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［4］生徒の多様な将来像に応えるための計画 生徒が持つ将来像について、体系的に学習し、体験する機会を提供し、各自のキャリア実現に求められる学力や能力を育成する。	**［9］生徒の多様な将来像に応えるための方策** ２年生の自主活動期間や長期休業中におけるキャリア教育の一環として、職場訪問を実施する。このような多様な社会体験により、社会人として必要な知識や技能を身につけ、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成する。 キャリア教育の一環として各学年の生徒を対象に進路ガイダンスを実施し、進路情報の提供を行う。	**［9］生徒の多様な将来像に応えるための方策** 『1 年生：高校生に変える、2 年生：受験生に変える、3 年生：大学入試・就職試験への取り組みと卒業後の生活への適応を図る』という全体的な方針の下、1･2 年生では感性を育み将来の目標を確立させ、3 年生では、進学と就職の両者に共通の分類ごとに、ガイダンス、選抜試験、三者面談、企業訪問など、生徒の将来像に応じたきめ細かい指導を実践した。	B

２．多様な生徒の支援に関する目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［5］多様な生徒の支援に関する計画 健康管理や学校生活及び家庭生活における具体的な相談や指導に対応するため、生活支援体制を更に充実させる。	**［10］教育相談体制の充実** 多様な生徒のニーズに応じた細やかな教育指導と生活指導の充実を図る。 生徒一人ひとりの養育歴や家庭環境に配慮し、保護者と連絡を取り合い、最適な指導方法を検討していく。また、担任は必要に応じて、教育相談室や外部機関と連携をとりながら生徒を見守る。更に複数相談員の体制を整える。	**［10］教育相談体制の充実** 教育相談室長の下、カウンセラー二人体制で相談を実施した。新型コロナウイルス感染症による休校がなかったことなどから、相談件数は増加した。教育相談活動は、早期発見、早期対応が重要であるので、問題発生時には担任・コース（学年）管理職・保健室・相談室がチームとなり、保護者と密に連絡をとりながら対応した。	B

Ⅲ．地域社会との連携

１．良好な社会的関係構築に関する目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［6］良好な社会的関係構築に関する計画 学校行事への招待などによる地域交流、校外清掃などボランティア活動等、地域コミュニティーとの関係を維持・発展させる活動を行う。	**［11］良好な社会的関係構築を図る方策** 授業を設定せずに様々な活動に充てることのできる自主活動期間を中心に、福祉施設、校外清掃活動、小学生対象の英語学習補助など、ボランティア活動の場を提供する。家庭と協力し、県や市が主催するコミュニティー活動、地元の町内会活動など校外の諸活動への積極的な参加を促し、社会の一員としての意識を醸成する。	**［11］良好な社会的関係構築を図る方策** 文化祭における地元住民を招いての交流活動や施設訪問については、新型コロナウイルス感染症の関係で令和２年度以降中止しており、今年度も実施しなかった。グローバルサイエンスコースでは、通学路の一斉清掃を７月と３月に実施した。また、通学時に岡山駅や交差点でのマナー遵守を指導する活動を行っている。	C

２．地域教育の目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［7］地域教育の計画 校外清掃などボランティア活動や企業の見学実習などを行う。	**［12］提携企業等と連携した教育の提供** 自主活動期間や長期休業中におけるキャリア教育の一環として職場訪問を計画する。このような多様な社会体験により、社会人として必要な知識や技能を身につけ、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成する。	**［12］提携企業等と連携した教育の提供** １・２年生を対象に、企業から講師を招いて、就職ガイダンスを実施した。また、具体的なキャリア教育の一環として、就職希望者を対象に、自主活動期間や長期休業中において企業訪問を実施し、社会人として必要な知識や技能の養成を行った。	B
	［13］国際バカロレア（IB）教育プログラムの導入 国際バカロレア教育のコアとなる「創造性・活動・奉仕」プログラムに倣い、他のコースにも一定のボランティア活動時間を総合的な探究の時間に組み入れることを検討する。	**［13］国際バカロレア（IB）教育プログラムの導入** IB の「創造性・活動・奉仕」プログラムは、環境、貧困など社会的な課題の現場を体験して解決に取り組む大がかりな活動を求めており、他のコースでの実施は困難が伴う。このため、他のコースでは、総合的な探求の時間での活動や校外清掃などのボランティア活動、企業調査や訪問などにより社会人として必要な多様な能力の養成を行った。	D

Ⅳ．国際化の推進

１．国際理解と異文化交流の目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［8］国際理解と異文化交流の計画 交流協定による教育プロジェクト、生徒の海外研修などを実施する。	**［14］交流協定校との交流** 国際理解に重点を置き、異文化交流に積極的に取り組む。生徒に国際的感覚を身近に感じさせるために、留学生を可能な限り受け入れ、また、海外校との交流協定を締結し、留学制度を確立させる。 交流協定により訪問を受ける外国からの研修団との交流、関連大学の留学生との交流などの機会に、生徒を積極的に参加させることによって、異文化交流を推進する。なお、新型コロナウイルス感染症に伴う出入国の制限に対応するために、必要に応じて、オンラインによる交流を実施する。	**［14］交流協定校との交流** 今年度は、新型コロナウイルス感染症による活動制限が緩和されたため、令和２年度から自粛していた海外の協定校との交流を再開した。 韓国正明高校・木洞高校訪問（令和５年10月26日～29日）、韓国正明高校来校（令和６年２月２日･3日）、泰日工業大学研修来校（令和５年８月27日～9月３日）、米国ライト大学、フィンドリー大学訪日文化研修団（令和５年６月26日～7月10日 これらの交流はグローバルサイエンス、国際バカロレア、総合進学の各コースの生徒が相手側の生徒などと文化交流を実施した。 また、年度末には、昨年度に引き続きオーストラリア・ケアンズにおける英語研修とホームステイプログラムを実施した。	B

２．国際的な教育の目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［9］国際的な教育の計画 対象国での広報活動の展開と生徒の受け入れを行う。	**［15］国際的な教育の推進** 通信教育により海外での生徒を募集する加計学園の関連校（学校法人英数学館など）と共同で広報活動を展開し、生徒の確保を図る。	**［15］国際的な教育の推進** 海外での生徒を募集する加計学園関連校の通信制高校や加計学園国際交流局の協力を得て、広報活動を展開し、生徒の確保に努めた。また、留学生が来日して通信制教育を受けるための制度を樹立した。	B

Ⅴ．ＤＸの推進

１．ICT 活用に関する目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［10］ICT 活用に関する計画 ICT 活用推進のための FD 実施及び各種証明書の申請手続きの web 化を図る。	**［16］　ICT 活用に関する方策** ICT に関して、年間２回の教職員活動を実施する。 各種証明書の申請手続き WEB 化のための方法を調査し、比較検証する。	**［16］　ICT 活用に関する方策** ICT に関する利用の手引きを年度始めの職員会議で配布し、本校のネットワークを活用する方法を全教員に徹底した。 各種証明書の申請手続などを含めた事務的な作業の電子化には、学園共通のプラットフォーム構築の検証が必要であるとの結論に至った。	C

Ⅵ. ガバナンス体制と内部質保証システム

１．学校運営の改善及び効率化に関する目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［11］学校運営の改善及び効率化に関する計画 校長がリーダーシップを発揮できる環境を充実させるため組織及び運営の改善を継続的･恒常的に実施する。	**［17］学校運営会議の強化** 教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有するために、学校運営会議を定期的に開催し、学校を取り巻く現状を報告、確認することによって、必要な措置を講じる。また、協議した内容は職員会議で全校に諮る強力な運営体制を維持継続する。 学校運営会議には附属中学校の管理職を隔週ごとに招いて附属中学校との合理的・一体的な運営を進める。	**［17］学校運営会議の強化** 校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、中学校の教頭を加えて運営会議を毎週実施した。中学校の教頭が会議のメンバーとなることで、中学校と高校間で情報の交換と連絡調整を進め、効率的で統一された方針による学校運営を進めた。学校運営会議での検討事項は職員会議に諮り、業務について教職員全員で共通理解を得られるようにした。	B
	［18］教科会議の強化･連携 教科会議を定期的に開催し、議事録によって検討事項、決定事項を校長、教頭に報告する。	**［18］教科会議の強化･連携** 教科会議を定期的に開催し、議事録を学内サーバーに上げて、管理職を含め教職員との情報共有を図った。	C
	［19］情報共有の強化 職員会議以外にも、Classi、メールや校内情報サーバーによって、教職員間の情報共有を図る。	**［19］情報共有の強化** 教職員への連絡事項は、職員朝礼、学内メール、Classi を利用して情報の共有を行っている。	B
	［20］校務横断的な取組み 複数の校務分掌を担当することによって、業務の理解及び業務の分散化を図る。	**［20］校務横断的な取組み** 教員は主たる分掌分野に加えて、補助的に業務を担当する分野に所属し、業務の理解及び業務の分散化を図っている。	B

２．教育の質保証に関する目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［12］教育の質保証に関する計画 アクティブラーニングの導入やIB教育の理念を取り入れた授業を実施することにより効果的な教育方法・教育内容を充実させる。	**［21］教職員の資質向上への取組み** 学校現場で必要となるリーダーシップ性を向上させるために、各種の研修やワークショップ等へ参加させることで、個々のスキルアップを図り、組織の一員として自己の確立へ導く。 国際バカロレアや新学習指導要領に関係する研修へ積極的に参加させる。 外部団体主催の教科指導に関係する研修を重要視し、研修への参加を強く勧める。 研修で得た情報は、職員会議や校内ワークショップにて全教職員で共有する。	**［21］教職員の資質向上への取組み** 県の私学協会が主催する研修会への参加、教育関係の団体や企業が開催する教科に関係する研修会への参加を通して、個々の教員のスキルアップを進めた。一方で、新型コロナウイルス感染症による活動制限や入学者の増加による教員の多忙化などの影響により、研修への参加は限定された。	C

３．教育の質保証に関する目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［13］内部質保証に関する計画 内部質保証を充実させ、組織運営の改善に活用するため、的確な評価指標を設定し、適正な個人評価（教員活動評価）を実施する。	**［22］学校運営会議の強化** 教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有するために、運営会議や教科会議などを定期的に開催するとともに、自己点検及び外部評価を実施する。	**［22］学校運営会議の強化** 『校務分掌やコースなど各部署が業務を能動的に立案し、学校運営会議で検討し、職員会議に諮る』という流れを遵守し、業務について教職員全員で共通理解を得られるようにしている。学校運営全般についての外部評価は、毎年度末に保護者全体に依頼する学校調査アンケートの結果を活用している。	B
	［23］教科会議の強化 教科指導に関しては、教科主任が中心となり授業研究を進める。	**［23］教科会議の強化** 教科会議は各教科において定期的に開催し、授業運営の円滑化や授業の改善に努めた。	C
	［24］授業評価による授業の改善 教頭、教頭補佐等によって授業評価を行い、教育の内容と教員指導力の改善などを進める。 生徒による授業評価を実施し、授業担当者による効果的な授業の進め方を検討する。	**［24］授業評価による授業の改善** 常勤教員を対象に、活動目標と計画を年度当初にまとめて、校長、教頭と面談し、中間期と学年末に振り返る活動を実施した。この活動に合わせて、教員による相互の授業見学を全校的に企画・実施し、教員指導力の向上を図った。	B

４．財政基盤の強化に関する目標

中期計画	令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
［14］財政基盤の強化に関する計画 経費を抑制するため財務情報等を活用し、財務分析を行うことにより業務の現状を検証し資源配分の重点化や経費削減など、より一層の効率化を実現する。	**［25］財政基盤の強化** 学校運営を行うために、定員の確保を最優先課題として受験生のニーズに沿った募集活動を展開する。体力のある組織を構築するために、改革と削減に加えて選択と集中により、人件費、教育研究経費、管理経費の適正化に取り組む。	**［25］財政基盤の強化** 新型コロナウイルス感染症のために、オープンスクールへの参加者を制限したが、ほとんどのイベントで満席の状態が実現した。入試においても、受験者数は過去７年間で最も多く、入学者数も定員の 95%程度まで回復する見込みである。岡山理科大学などの関連大学・専門学校との連携による特徴的な教育が入学者数の増加に繋がっていると見られ、来年度も定員確保に向けての活動を継続する。	A

主な行事	
4月7日	始業式
4月9日	入学式
4月16日	前期入学式（通信）
5月12日	PTA総会
7月9日	後援会総会（通信）
7月19日	全校集会
9月1日	全校集会
9月17日	前期卒業式（通信）
9月22日	体育祭
10月2日	後期入学式（通信）
10月7日	文化祭
12月22日	全校集会
1月6日	県外生入試
1月25日、26日	選抜１期入試
2月19日	選抜２期入試
3月1日	卒業式
3月11日	後期卒業式（通信）
3月18日	終業式

学生数・教職員数

■在籍生徒数

（令和5年5月1日現在）

課程・学科・コース名			入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
全日制課程	普通科	グローバルサイエンスコース	100	322	1,200	844
		総合進学コース	200			
		スポーツサイエンスコース	80			
		国際バカロレアコース	20			
	全日制課程　計		400	322	1,200	844
通信制課程　（広域）普通科			－	－	600	87
総　合　計			400	322	1,800	931

（単位：人）

■卒業者数等一覧

（令和５年度）

区分	卒業者	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学希望者 C	進学者 D	進学率 D/C
全日制課程	244名	34名	34名	100%	204名	200名	98%
通信制課程	24名	－	－	－	－	19名	79%

主な入試合格大学 （　）:人数	国公立大学:大阪大学（1）、香川大学（1） 関連大学:岡山理科大学（50）、倉敷芸術科学大学（12）、吉備国際大学（4） 私立大学:慶応義塾大学（1）、駒沢大学（2）、東洋大学（1）、日本大学（1）、 京都産業大学（2）、同志社女子大学（1）、立命館大学（2）、龍谷大学（1）、 関西大学（3）、近畿大学（3）、神戸学院大学（8）、岡山商科大学（4）、 山陽学園大学（4）、就実大学（4）、環太平洋大学（3）、広島経済大学（2）、 広島工業大学（1）、広島修道大学（2）、徳島文理大学（2） 海外の大学：Taylor's University（2）
主な就職先	（県内）JFEスチール（株）、カーツ（株）、クラレテクノ（株）、ナカシマプロペラ（株）、 ヤンマーアグリ（株）、（株）新来島サノヤス造船 （県外）トヨタ自動車（株）、マツダ（株）、いすゞ自動車中国四国（株）、 （株）JFEメカテクノ、（株）雪国まいたけ、山崎製パン（株）、 西日本旅客鉄道（株）、東邦ガス（株） 〔公務員〕海上自衛隊

■教職員数

（令和5年5月1日現在）

校長	教頭	教諭	**教員　計**
1	3	49	**53**

事務職員
11

（単位：人）

財務関係

■事業活動収支

（単位：千円）

科目			令和５年度予算額	令和５年度決算額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	543,891	544,239
		経常費等補助金	295,413	285,987
		その他収入	32,254	44,511
		計	871,558	874,737
	支出	人件費	707,449	712,108
		教育研究経費	308,184	292,935
		管理経費	126,607	120,821
		その他支出	0	0
		計	1,142,240	1,125,864
教育活動収支差額			△ 270,682	△ 251,127
教活外	収	受取利息等	0	2
	支	借入金利息等	3,922	3,922
教育活動外収支差額			△ 3,922	△ 3,920
経常収支差額			△ 274,604	△ 255,047
特別	収	資産売却差額等	0	0
	支	資産処分差額等	0	2,168
特別収支差額			0	△ 2,168

基本金組入前収支差額	△ 274,604	△ 257,215
基本金組入額合計	△ 88,719	△ 178,035
当年度収支差額	△ 363,323	△ 435,250

■財務改善に向けた取組

今後、岡山県内の１５歳人口が急速に減少することを踏まえ、安定的な学校運営を行うためには定員の確保が最優先課題であり、受験生のニーズに沿った募集活動はもとより、在校生の満足度を上げる必要があると考えます。さらに過去３年間で着実に増加してきている入学生数をさらに増加させるため、引き続き本校の教育活動並びに教育内容を多角的に伝え、広報活動の充実を図ります。在校生について教育活動はもとより心身ともに健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化します。

■施設設備整備報告（抜粋）

老朽化に伴う改修工事及び設備設置について、緊急性の高いものから順次整備する予定としており、今年度は女子生徒の増加に伴い不足している女子用トイレの増設、和便器から洋便器への交換、老朽化したテニスコートの改修等を優先的に実施しました。

装置・設備については、老朽化に伴うエアコンの更新を実施しました。

主な施設関係　（単位：千円）

事業名	金額
第一校舎、第十校舎他便所改修工事	37,582
テニスコート改修工事	28,744

主な装置・設備関係　（単位：千円）

事業名	金額
校舎エアコン更新	6,643